

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2472900246		
法人名	医療法人豊和会		
事業所名	グループホーム 第2やまもも		
所在地	三重県志摩市阿児町鷺方2555-9		
自己評価作成日	平成 23年 6月 10日	評価結果市町提出日	平成23年8月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokuhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2472900246&SCD=320&PCD=24>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会		
所在地	津市桜橋2丁目131		
訪問調査日	平成 23 年 7 月 1 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

病院に併設されたグループホームであるため日常的にリハビリテーションを利用したり、体調不良時の受診などが気軽に受けられる。また医師や看護師と24時間連絡が取れる体制が整っており、急変時の対応など安心である。
利用者様の笑顔をなにより第一に、いつでも明るく元気に過ごして頂けるよう、職員の個々の特性を生かしてサービス提供に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

志摩・鳥羽地域で医療・介護・福祉を一体化した医療法人本部の病院に併設されたグループホームであり、24時間、緊急時の医療対応や理学療法士によるリハビリ治療も受けられる事業所である。利用者は馴染みのある笑顔の職員達と、ゆったりと穏かに過ごしている。同敷地内の有料老人ホーム・介護付き老人ホームの行事に参加したりその施設の利用も可能である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームは利用者様が『私らしく暮らす家』である事を常に忘れず、これまでの人生を送ってきた地域の中で、楽しく豊かに暮らせるようなサービスの実践を心がけている。	開設時から『志摩市の一員として、ゆったり、楽しく、一緒に、豊かに、私らしく過ごす家を目指します』の理念を事業所に掲示することで、ベテランの職員達は日常を振り返り、時間をかけて日々の支援を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人の事務部門が自治会に入会しているのでそこから情報を収集したり、運営推進会議のメンバーである自治会関係者から情報を収集して行事等に参加し、地域との交流に努めている。	自治会に加入し、利用者と共に祭り、小学校の運動会やパトロール等、出来るだけ地域の行事に参加し、地域の方達との付き合いや外出の機会として楽しみにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 http://kaigos.pref.mie.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2472900246&SCD=320	経験豊かな職員が地域包括ケア会議に参加し、認知症の方との関わり方や、連携について意見を出し貢献している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回会議を開催し、参加した行事や活動状況、サービス評価結果などを報告し、サービス向上にむけたご意見や問題解決のアイデアなどを頂いて運営に活かしている。	2ヶ月に1回開催されている。市からは介護保険課・福祉総合支援室から、2名の参加がある。自治会・老人会の地域代表等もその都度参加があり、情報提供や意見が出され、継続したサービスの向上に繋がっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市役所介護保険課より1名、ふくし総合支援室より1名参加頂き、ケアサービスの取り組みについて報告すると共に、法的な事の相談や手続き等についてアドバイス頂いたりしている。	福祉総合支援室主催の『地域包括ケア会議』年4回開催に出席して、認知症ケアの専門職として意見を述べる等双方向関係に努めている。また介護保険課とは書類の手続き時に情報交換したり、相談にのって貰っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止の為の講習に参加することで正しい理解を深め、拘束廃止に向け前向きに取り組んでいる。	現在入居中の利用者は安定しているが職員は研修の機会を持つことで常に振り返り、『拘束しないケア』に取り組み、実践している。理念に沿いゆったりと穏やかに接している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	講習会に積極的に参加し、高齢者虐待防止について学び全員で防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の冊子を取りよせ啓発に努めると共に、関連の講習会などにも参加し活用できるよう学習している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	担当の相談員より十分説明を行い、同意を得たうえで契約頂いている。《入所前の施設の見学や、体験入所も可能》		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設の見やすい場所に相談窓口の掲示やご意見箱を設置すると共に、重要事項説明書にも記載してご意見を頂けるよう努めている。	運営会議の報せは全家族に送っているが参加者は限られている。面会時、一対一でゆくり家族に話しを聴き意見を言いやすい雰囲気作りをして、意見があれば運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々のミーティングや申し送りノートを活用して様々な意見や提案を汲み取るよう努めている。	職員は勤務につく前には各々が、申告ノート・個人記録に目を通し意見交換をしている。事項によっては、月1回の管理会議に管理者より提案され、検討後運営に反映している。勤務希望については優先されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や資格修得状態など人事考課に反映し各自がやりがいを持って就労できるよう環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得など様々な講習会の情報を提供し、積極的に参加する環境を整えたと共に、受講費の補助や勤務体系などでサポートしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の介護サービス施設が加入する連絡協議会に参加し職員同士の相互交流を図ると共に、インターネットを利用して最新情報の収集に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時面接でいろいろな項目についてゆっくり話を伺う機会を設ける事によりご本人の要望にしっかり耳を傾け、その情報は職員全員が共有しより良いサービス提供に活かしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時に家族からゆっくり話を伺う時間を持ち、困っている事、不安や要望を汲み取り、信頼関係構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	きめ細かくアセスメントを行い、必要なサービスを見極め提供するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	後片付けや洗濯物干しなどできることを手伝っていただいたり、理念にあるようにゆったり、楽しく、一緒に、豊かに暮らす家族のような関係であるよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様と家族の絆が途切れる事のないよう、日頃からホームでの利用者様の様子を積極的に伝えるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元の祭などに参加し地域の方と交流する機会を持つようにしたり、利用者様の暮らしていた地域へドライブで出掛けたりしている。	今まで食べてきた物に関しては興味を示す事が多く、外食や献立に結びついている。本人が興味を示すことや出来る事から馴染みの人や場所の関係把握に努め、定期的な墓参りや以前住んでいた地域の祭りに参加する等支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	様々な身体状況、精神状況の利用者様がいたので、それぞれが快適に過ごせるよう座席等を配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された方のお見舞いに伺ったり、他の施設へ転居された方に面会に伺ったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望に応じて必要な物を本人に代わって買ってきたり、一緒に買物に出かけたり、食事の嗜好を把握して、できるだけ希望に添えるよう支援している。	利用者・家族共一对一の時が話しやすいので、お茶を入れゆっくり時間をつくって、思いや意向の把握に努めている。買い物や外出の希望等は表出しやすいがそのチャンスにも意向を捉えるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の面接で過去の生活歴など聞き取り、情報を職員全員で共有し、日頃の関わりの中で声を掛ける時などに活用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活のリズムや心身の状況はケアプランの見直しの度にチェックし把握に努め、日頃の気付き等も介護記録に細かく記入、毎朝のバイタルチェックも欠かさず行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月に1回モニタリングを行いそれに基づいたケアプランを作成、その際にはご本人や家族の意向も確認し、プランに反映できるよう努めている。	利用者がその人らしく、より良く暮らす為、センター方式を部分的に活用し必要な支援を見出し、家族の意向も取り入れケースカンファレンスでチームとして計画の作成・必要時の見直しをしている。	『利用者本位』を大切にしたいセンター方式を部分的に利用しているがその範囲を広げ、職場や地域で共通の視点や支援方法の充実で、職員がスペシャリストとして自分達の一層の励みに繋がることを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様1人に1冊づつ介護記録があり、食事、排泄、投薬等の健康管理から日々の様子など気付いた事を気軽になんでも記入しており、職員は出勤時に必ず全員の記録に目を通す事になっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの要望や状況に応じ、訪問診療やリハビリテーションを活用するなど柔軟に支援対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議の参加者よりいろいろな情報を頂いたり、避難訓練に参加頂きホームの取り組みをサポート頂けるよう働きかけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの利用者様が併設病院の医師が主治医であり、定期的に健康診断を実施し健康管理に努めると共に、他の医療機関受診も可能で柔軟に対応している。	利用者・家族は併設病院医師を信頼し、主治医としている。リハビリが必要な人は週5回受ける等生活の張りになっている。歯科や眼科等の受診は家族が付き添い情報の共有が図れている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携している看護師により定期的に巡回があり、利用者様の健康管理や、介護上の相談に応じてもらえたり、24時間連絡可能な体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ホームの相談員が日頃から地域の医療関係者との連携を密にしており、入退院など必要時には迅速に対応できる体制を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時契約の段階で重度化した場合の方針について丁寧に説明を行い、話し合いの上、同意頂いている。	ホームで突然死された方はあったが看取りは行わない方針である。入居時に話し合い、状況によって必要な医療等を紹介する事を説明し納得されている。状態の変化があれば利用者・家族・関係チームでその都度話し合い、必要な支援が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	2年に1回の頻度で全職員が救命講習を受講し万一の事態に備えると共に、マニュアル等も整備して迅速に動けるよう環境整備に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、併設病院と合同で消防署も参加しての消防訓練を実施、全職員が参加して避難誘導体制を整えると共に、ホームでも夜間を想定しての誘導、通報、駆け付けの訓練を行い非常時に備えている。	今年から夜間一人の時の避難誘導訓練を追加し、比較的スムーズに避難できた。有事には簡単にできるとは思えないので引き続き計画している。台所はIHでスプリンクラーも設置できている。当事業所は地域の一時避難場所になっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護の重要性について日頃から配慮すると共に、自分たちよりもはるかに長い時間を生きてこられた人生の先輩である事を忘れず敬意をもってサービスの提供に努めるようにしている。	各々の利用者に対して、職員が気持ちよく応じてくれた働きかけを基に、目を合わせて穏やかに声掛け・誘導を心掛けている。接遇研修で常に振り返っており、人生の先輩として尊重し、プライバシーや誇りを傷つけない対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いを言葉にできない方、表出に時間がかかる方、また年代柄、遠慮などで思いを表わさない方が多い事を忘れず小さなシグナルを汲み取れるよう注意深く接する事、表出できる信頼関係を築くことに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一律のメニューでサービスを提供するのではなく、利用者様が笑顔で一日を過ごせるような支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で出来る事はして頂き、出来ない部分を意向を確認しながらその人らしさを大切に支援を行うよう努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの嗜好や嚥下の状態に配慮して食事を準備し、また下ごしらえや後片付けも出来る範囲でお手伝いいただいている。	口に物を入れて会話する事を嫌がる方があり、食事時の会話は少なく感じるが『美味しいな』と実感を言う方もおり、職員の細やかな心配りで食事時間も穏かである。食器やお膳を拭いたり利用者も持てる力が発揮され、自信がみうけられる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせた食器や食事の形状で自分で美味しく安全に食べて頂ける工夫をし、摂食量は毎回記録、また水分は歩行が困難な方や希望される方にはペットボトルにお茶を用意し、いつでも飲んで頂けるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの残存能力に応じ、声を掛け促したり、職員が介助したりして取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレの時間や習慣を介護記録に残すなどして全職員が把握し、一人ひとりの排泄パターンに合わせた誘導や介助を心掛けている。	排泄の時間・失敗・成功や排泄量を把握し、誘導したり、臭いを感じてさりげなくオムツやパンツを交換する等利用者個々の状況に合わせた援助で自立を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の講習会に参加し全職員が知識を共有すると共に、食事面では食物繊維をたくさん取れるようメニューや形状を工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には1～2日おきの入浴であるが、毎日風呂は用意しているので、希望があればいつでも入れる体制であり、一人で入れる方はさり気ない見守りをしたり、個々に応じた介助を臨機応変に行っている。	毎日準備し、隔日には全員が入浴できるよう支援している。利用者個々に必要な援助が行われており、夏場等汗がひどくてと希望する方には、夜間もシャワー浴で対応している。一対一の援助で思いが伝わるチャンスと捉え、支援できている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝室が快適であるよう配慮し、一人ひとりの体調や習慣、夜間の睡眠の状態などを考慮して休憩したり気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は職員が管理、利用者様の個々の疾患について理解し、与薬ミスのないよう細心の注意を払うと共に、体調変化等は迅速に主治医に報告し、状態に応じた投薬を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	過去の生活歴から得意な分野を探り、ホームの仕事を手伝っていただいたり、花の季節にはいろいろな所へドライブに出かけたりして気分転換をして頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	馴染みの場所へのドライブからご近所の散歩まで、利用者様の様子やご希望にそって支援したり、地域の祭やイベントに出掛けたりしている。	利用者が希望する出身地へのドライブ・祭り参加・近所の散歩・買い物・季節の花見・花火見物・1年に1回の芝居見物等車椅子の方も参加し、皆で楽しんでいる。又隣接の老人ホームの行事にも参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの方の預り金を職員が管理しているが、自分で小遣いを持っている方もあり、希望に応じ買物と一緒に掛かけたり、欲しいものを代わりに買って来たりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望に応じ電話を使う介助(番号をプッシュしたり代わりに電話口で話したり)や、手紙の投函、近況が伝わるよう写真を入れて一人ひとりオリジナルの年賀状を作成し、ご家族などに出して頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	歩行が不安定な方が増えてきているので、床面の整理整頓や、室内の照明に配慮すると共に、殺風景にならないよう季節感を大切に、花を生けたり、絵を飾ったりしている。	既設の病院を改装した為、お風呂の入口の段差や対面でないキッチン等気になるところもあるが職員の工夫や努力でカバーされている。皆が座れる大きなテーブルやソファ・畳の空間には七夕飾を配して季節を感じさせる等ゆったり過ごす事が出来る日常の工夫がみられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った方同士ソファでくつろいで頂けるよう配慮して座って頂いており、認知症の強い方がトラブルになりそうな時は、すぐ職員が間に入ってお互いが気持ちよく過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具を持ち込んでいただいたり、家族の写真を飾ったり、居心地良い空間創りを心掛け、家具の移動などは本人のご希望に沿ってお手伝いしている。	居室の入口は利用者の写真や個性のある絵が飾られる等工夫がされている。自宅からの馴染みの家具を配置したり、利用者の好きなように家具を配置変えたりと心地よく過ごせる援助がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の身体の状態に応じた安全なホームであるよう手すりなどのハード面はもちろん、声掛けで安全を促したり、見守りを徹底したり、施設内の掲示を解り易く大きくしたりして工夫している。		